

臨地実習（精神看護学）

[実習] 後期 選択 180時間 4単位

《担当者名》○八木こずえ [co-yagi@hoku-iryo-u.ac.jp]
宮地普子 [miyajih@hoku-iryo-u.ac.jp]
中安隆志 [nakayasu@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

臨地実習は治療診断実習とサブスペシャリティ実習の2つを組みあわせて行う。診断治療実習は精神科医師や臨床心理士など、適切な治療の鍵となる職種から学ぶ機会であり、多職種連携を築く機会ともなりうる。そのため診断治療実習後にサブスペシャリティ実習を引き続き行い、診断治療実習で得られた知識や人間関係を基盤として、専門性を高める実践を目指す。評価の単位認定は各2単位ずつとして行う。

【学修目標】

【A：精神科診断治療実習（2単位）の実習概要】

精神科医、臨床心理士のスーパービジョンを受けながら、精神状態の査定や診断技法、治療技法の実際を学び、臨床判断能力の向上を目指す。

【A：精神科診断治療実習（2単位）の学習目標】

- 1) 精神科医の診断治療と臨床心理士の心理療法・心理教育の実践に同席し、各事例に対する多様な診断技法、治療技法についての理解を深め、Cureに関する臨床判断能力を高める。
- 2) 精神科医や臨床心理士に対して、事例の解説や質問を介して、連携を深める共通理解や相互理解を深めるコミュニケーションを持つ事ができる。

【B：サブスペシャリティ領域実習：慢性期看護（2単位）の実習概要】

診断治療実習で得られた知識基盤を土台に、精神専門看護師のスーパービジョンを受けながら複雑で多様な問題を持つ慢性期の精神障害者の事例を受け持ち、ケアの困難状況を多面的・包括的にアセスメントし、当事者の問題解決や回復やQOLを高めるための看護を計画して実践する。診断機能実習で得られた人間関係を基盤に情報交換の機会も持ち、多職種との連携や協働を意識した実習を行う。

【B：サブスペシャリティ領域実習：慢性期看護（2単位）の学習目標】

- 1) 複雑でケア困難な慢性期の事例を1～2例受け持ち、困難性が発生している状況の全体像を、精神状態の査定や経過の理解、心理社会的環境を含めてアセスメントし、病棟ナースとコミュニケーションを取りながら、看護ケアの方向性と計画を立案できる。ケア計画においては、多職種との情報交換や連携も意識した行動をとる事ができる。
- 2) 受け持ち患者のセルフケア能力を高め、安定した療養生活を送れるよう、悪化した病態や行動化を改善しQOLを高め、退院促進につながるケアを提供する。看護介入やアセスメントに用いた看護理論や技法、自らの思考過程をわかりやすく資料化し、カンファレンスにおいて病棟チームの参考となるケア方法の提案を試みる事ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	【実習課題】 1, 診断治療に関する臨床判断能力を高める実習	1) 陪席した事例の診断治療の内容について医師や臨床心理士に積極的に関わり、疑問点の解明や共通理解のコミュニケーションを持つ。 2) 医師や臨床心理士の診断治療の内容を学び、判断のズレや不足点から新たな知識を得て自己課題を見出だす。 3) 連携や相互理解を深めるコミュニケーションを持つ事ができる。	八木 宮地 中安
	2, サブスペシャリティ領域（慢性期看護）において総合的・専門的アセスメントと実践を行う。	1) 病棟管理者とケア困難や問題解決が必要な状況・事例について学び、受け持ち患者を1～2名決定し、包括的アセスメントを行う。 目標や介入方法について看護計画を立てて実践する。ケア計画の立案および実践においては、多職種との情報交換や連携も意識した行動をと	

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>ることができる。</p> <p>2) 看護介入やアセスメントに用いた看護理論や技法、自らの思考過程をわかりやすく資料化し、カンファレンス等で病棟チームの参考となるケア方法の提案を試みる事ができる</p>	
	【実習方法】	慢性期看護の困難性を抱える入院治療中のケースへの受け持ちを基本とし、退院支援中であれば、退院前訪問看護の実践や家族支援も考慮する。地域生活中のケースには訪問やデイケアでの実践も考慮する。	
	【実習場所】	五稜会病院	
	【実習期間】	基本は4週間であるが課題達成状況により延長する	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習記録の評価（30%）実践内容の評価（30%）レポート評価（40%）

【教科書】

宇佐美しおり編（2012）.精神看護スペシャリストに必要な理論と技法.日本看護協会出版会

【備考】

実習要項を参照する

【学修の準備】

サブスペシャリティ領域において実践能力を高める上での自己課題を明確にし、実習計画を立てて臨むこと